

「漱石とわたし」 日本語エッセー募集

「漱石国際エッセーコンテスト」を開催します。
19世紀から20世紀初頭にかけて活動した
日本の作家・夏目漱石は、
近代社会への過渡期の時代に生き、
日本で最も親しまれた作家です。
作品は海外にも翻訳され、
代表作「こころ」は
20以上の言語に翻訳されています。
現代日本を代表する作家・村上春樹にも、
大きな影響を与えています。
今年、漱石没後100年、
競争の激化、生きる基盤の喪失、孤独の深まりなど
近代化が社会や個人にもたらしたひびきみは、
今、グローバル化という大変化に
直面している現代にとっても、
普遍的でアクトユアルな課題です。
そこで、今も生き続ける漱石の魅力について、
日本語を母語としない外国人や留学生の皆さんから
日本語エッセーを募集します。
学術論文ではなく、
エッセーで応募して下さい。

テーマ 「漱石とわたし」。本文中に、漱石作品を初めて読んだ時のこと(作品名、いつ、どこで、何語で、なぜ)を必ず入れて下さい。

応募資格 海外及び日本在住で日本語を母語とせず、日本滞在歴2年未満の人。在日留学生も可。

応募規定 日本語で2000字以内。パソコンで作成し、インターネットのメールの添付ファイルで送付して下さい。郵送・ファクスも受け付けます。手書き原稿で応募する場合は原稿用紙を使って下さい。いずれの場合も申込用紙を添付して下さい。

送り先

電子メール soseki@soseki.biz

郵送 〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富 1141-10

「漱石国際エッセーコンテスト」事務局

FAX 049-274-7815

締め切り 2016年8月10日

審査員(順不同・敬称略) 姜尚中・熊本県立劇場館長、中島国彦・早稲田大学名誉教授、ロバート・キャンベル・東京大学教授、安藤裕康・国際交流基金理事長、岡本厚・岩波書店社長、鈴木佳秀・フェリス女学院学院長、西村陽一・朝日新聞社常務編集担当

贈賞 最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作5点程度。

最優秀賞・優秀賞受賞者計3人は2016年12月10日、東京・有楽町の有楽町朝日ホールで開かれるシンポジウム「世界は漱石をどう読んでいるか」に招待します。佳作以上の入賞者には「岩波文庫美装ケース入りセット 夏目漱石作品集(27冊)」を、最優秀賞・優秀賞受賞者には文庫セットに加えて「こころ」「道草」「明暗」の特装袖珍本(しゅうちんぼん)セットも贈呈します。



漱石
没後100年



佳作以上の入賞者に贈呈する
「岩波文庫美装ケース入りセット 夏目漱石作品集(27冊)」



最優秀賞・優秀賞受賞者に贈られる
「こころ」「道草」「明暗」の特装袖珍本セット

発表 2016年秋、朝日新聞及び朝日新聞デジタル

主催 朝日新聞社、国際交流基金、岩波書店、フェリス女学院大学

問い合わせ 朝日新聞社読書推進事務局 (03-5540-7985、平日午前11時～午後6時、日本語のみ)

注意事項

- ・未発表のオリジナル作品であること。
- ・引用、出典があれば明記して下さい。
- ・応募作品は返却しません。
- ・応募作品は主催者が発行・運営する媒体(webサイトを含む)に掲載することがあります。

詳細はHPから→

